



反貧困ネットワーク広島 会報

No.3 2012年1月5日



謹んで新年のご祝詞を申し上げます



さて、厚労省が昨年11月9日に公表した生活保護受給者は205万人を超え、過去最多を記録しました。その背景は、従来の生活保護受給者の大半を占めていた高齢者に加え、リーマン・ショック以降の雇用環境変化で、働き盛りの世代が職を失い、「働きたくても働けない」状態が影響しているようです。広島県労福協は、生活と心の相談ダイヤルの開設、メンタルヘルスセミナーの開催など、反貧困運動に引き続き取り組んでまいりますので、本年もよろしく申し上げます。

副代表（広島県労働者福祉協議会会長）宮地 稔

「年末まちかど生活相談会」を開催しました 今年3回目

12月13日、14日、広島駅南口地下広場において、まちかど相談会を行いました。今回も法テラスとの共催で行い、多くの皆様のご協力を頂き、無事終えることができました。どうもありがとうございました。

今回の相談会は、13日の出足は低調でなかなか相談数が増えませんでした。ニュースなどで報道されたためか最終的には過去最高の相談件数となりました。初日の13日が93件（面談70件、電話23件）、2日目の14日が129件（面談109件、電話20件）の合計222件でした。過去、1日の相談件数の最高記録は87件（9月14日）でしたが、連日の記録更新となりました。気候的に厳しいことや、9月の相談会のようにNPO法人化の総会決議後といったトピックもなかったため、どのくらいの相談があるかといった心配もあったのですが、杞憂に終わりました。



詳しい集計はまだしていませんが、今回の特徴としては労働問題に関する相談が多かったようです。解雇により職を失うだけでなく、健康保険や年金の問題が発生するなど、雇用問題がすぐに貧困問題に結びつく現状が現れていたように思います。また、9月の相談会と同様に精神面に問題を抱えた方の相談も多く、MSW（医療ソーシャルワーカー）の方が大忙しでした。

次回のまちかど相談会は、来年3月、自殺対策をテーマとした日弁連主催の「暮らしとところの総合相談」として行われる見込みです。日弁連の実施要領案によると、自治体の自殺対策協議会・精神保健福祉センター・臨床心理士会・労働組合・民間ボランティア団体等などと幅広く連携した取組みを図ることとされています。この機会に、より広い連携を図って、より充実した相談体制を作ることにつなげることができればと思います。皆様のご協力をお願い致します。（HM）

「広島つくしの会」

加入団体の紹介 広島つくしの会 専従相談員 栗川修子

広島つくしの会は正式には「クレジット・サラ金被害者の会」といい約 1200 人の会員がいます。借金で苦しむ人の相談、支援を行い、全国 89 の被害者の会とともに社会に被害を訴える活動をしています。

広島つくしの会が結成された昭和 56 年頃は、高金利・暴力的取立て・過剰融資というサラ金三悪がまかり通っていたために自殺や一家離散などの悲劇が頻発していた時代でした。これはまさに被害者だと広島の若い弁護士、山田延廣先生たちが立ち上がってくれました。先生方に後押しされ、被害者自身が声を上げ社会に被害を訴えていこうとできたのが「広島つくしの会」だったのです。

それから 30 年、金利引き下げや取立て規制の法改正の運動を続けてきて、昨年ようやく一つの目標であったサラ金三悪規制、改正貸金業法を勝ち取りました。二つめの目標は借金整理後の生活再建です。つくしの会では法制度の勉強会やレクレーションを通してお互いに生活上の困りごとを相談し合える関係を築いています。

しかし、今の社会情勢では借金がなくなったからといって、すぐ生活再建できるわけではありません。仕事がない、働いていても収入が少ないという人、高利貸しにしか頼るところがない人がほとんどだからです。つまり、多重債務の背景には貧困問題があるのです。そのため、最近では反貧困ネットワーク広島の一員として公的貸付制度や生活保護申請に同行するなど活動の幅を広げています。



MSW(医療ソーシャルワーカー)をご存知ですか？

専門職の紹介

広島共立病院 相談室 山地恭子

総合病院だけでなく、療養病床にも MSW（医療ソーシャルワーカー）が多く配置されるようになってきました。みなさんは MSW に何か相談をされたことがありますか？

人生の中で、病気やけがが原因で仕事が困難になり生活が困窮したり、病気は改善したけれど介護が必要になったりと、生活上の大きな問題に直面することが多くあります。私たち MSW は、様々な制度の活用や、面接などを通して、そのような問題を一緒に考え、解決に導くお手伝いをします。

医療費の支払いが困難であれば高額療養費請求や限度額認定証の発行などを助言、または身体障害者手帳取得や障害年金申請のお手伝いをすることもあります。高齢化社会を反映し、高齢者の介護保険利用のお手伝いや療養先の選択などを援助することも増えています。生活保護申請のお手伝い、債務整理のお手伝いが必要なこともあります。そのため、反貧困ネットワーク広島に加入して弁護士や社会保険労務士など他の専門職とも連携を図りながら、相談される方の問題と一緒に取り組んでいます。

精神科では PSW（フィジカルソーシャルワーカー）と呼びますが、基本的には同じ役割を果たしています。病院では「相談室」「医療相談室」最近では「地域連携室」に MSW が配属されていることもあります。相談は秘密厳守、生活をサポートする様々な制度に精通している専門職ですので、安心してご相談ください。

広島共立病院（安佐南区中須 2 丁目 19-6）
相談室 TEL/FAX （082） 879-6672

シェルター卒業生からの手紙

1. 私は去年、離婚や収入減少などで人生に絶望し、海へ飛び込み自殺未遂をはかりましたが死にきれず、広島に来て万引きを犯し、2ヶ月ほど広島拘置所にいました。

12月中頃に釈放されたとき、所持金は1万不足だったため、“死ぬ”か“犯罪をまた犯す”かをコインで決めようと思い、広島城の方を歩いていると弁護士会館が目にとまり、拘置所で見た反貧困ネットワークを弁護士の方が運営しているという新聞記事を思い出し、弁護士会館で反貧困ネットワークの連絡先を聞きました。

その日の内に生健会（守る会）へ連れて行ってもらい、福祉事務所で生活保護の手続きをし、その日はシェルターが満室だったためカプセルサウナで1泊し、翌日にシェルターへ入ることができました。シェルターのベッドで眠れた時、思わず涙が出ました。この半年間、野宿・ネットカフェ・拘置所などを転々としてきたため、ただ普通に眠れるということがこんなに幸福なんだと身にしみました。

10月1日付けで生活保護を辞退して、アルバイトとして働いており、ワーキングプアですが頑張っています。

2. 私は、生活保護を受けて感じたことを2点ほど挙げてみたいと思います。

①. 1人世帯では住宅扶助の家賃上限が42,000円のため、不動産業者はこの金額の物件しか紹介してくれず、生活保護を辞退した現在、この42,000円という家賃は大きな負担です。一生、生活保護を受けるわけではないのですから、30,000円位くらいの物件も紹介してほしいのですが、生活保護だと伝えると家賃は42,000円にされてしまうのです。もっと安い家賃のところへ転居しようと思い、家を探していますが、連帯保証人が必要と言われ、家賃保証会社の審査も通りませんでした。テレビで東京のNPOが生活保護者のアパート入居のため連帯保証人になっているというニュースを見ました。広島でもそうした制度ができてほしいと思います。

②. 生活保護受給後、福祉事務所の指導を受け、真剣に就職活動をしましたが、就職支度金の説明が無かったため、面接用のスーツ、カットシャツ、革靴、交通費など30,000円ほど捻出した結果、食費を削るしかなく、1週間に昼パン1個、夜ラーメン1杯でしのいで、体重が5キロも減りました。

反貧困ネットワークが今後、NPO化され、私のような人間が救われることを切に願うとともに、もっと広くシェルターやほっとサロンの存在、生活保護申請の手続方法を広報していただければ、広島がすごく良くなると思います。

T.S 48歳（男性）

『心といのちを守るシンポジウムひろしま2011』 参加報告

9月11日に国立精神・神経医療研究センターの大野裕氏による基調講演と傾聴と青少年の心のケアをテーマとする分科会からなるシンポジウムが行われました。基調講演では、はじめに、うつ病はこころの病ではなく、脳の病気であり社会の病気であるので、それぞれどうするかというのが必要であると言われました。うつ病の場合、ある一点がだめになると全てだめになったと思ってしまうので、そこから少し外に目を向けられるようになればよく、周囲は無理のない範囲で見守っていることを示すことが重要です。

後半の分科会は青少年のこころの健康とケアについて広島大学保健管理センターの内野悌司氏による講演に参加し、今の子供の社会は場の空気を読んでそれに乗っていかないと排除されてしまうという非常に高いコミュニケーション能力が求められており、気づいていて見守っている人の存在が大きく、周囲が専門家とつながっていることが重要です。今の制度で間接的に相談するには精神保健福祉センターを利用することになります。

うつ病に関する正しい知識を持って見守り、専門家をうまく利用することがポイントであることを改めて認識できたシンポジウムでした。（TM）

ほっとサロン …わきあいあい にぎやかです…

昨年6月22日の開所式以来、毎週月・水・金の午後の開所日と月に一度の食事会が続いています。週3回の開所日には、毎回5人～10人が来て、食事作りを担当されている大矢さんが作ったおいしいものをつまみながら談笑。月に一度の食事会には毎回20人以上がお腹一杯食べて、楽しいひと時を過ごします。



食事作りを一手に引き受けて大奮闘されている大矢さんに直撃インタビュー：

◇食事作りで気を配っておられることは？

大矢さん「なんと言っても食中毒などにならないよう衛生面には気をつけています。特に夏は。それから、みんなでおしゃべりしながらおいしく、楽しく食べてもらえる献立を考えるようにしています。だから、冬は鍋物が一番と思っています。」

◇苦労を感じることはありますか？

大矢さん「この台所がせまいんです。せま過ぎて食事を作るにも後片付けにも難しい。数十人の食事という食器の数も大変なものです。狭くて風通しが悪いので、夏はすごく暑くて、10Kgやせました。」

◇ほかに何か気になるようなことはありませんか？

大矢さん「いつも来ていた人が来なくなるとすごく気になります。足が痛いと言ってたけれど大丈夫なんだろうか、とか、食べるものをちゃんと食べているだろうか。」(HY)

11月28日、6回目の食事会は「カレーの日」でした。23の方が参加。その内、初めて参加の方が4～5名。大矢さんが自宅で作ってこられたカレーを食べながら、みんなで自己紹介。みなさん広島に住んでおられますが、その前はいろいろな所に住んでいたことがわかりました。九州から来た方もおられました。

前号で寄付をお願いしていた土鍋とカセットコンロを広島夜回りの会の方から寄付していただきました。ありがとうございました。

ほっとサロンの電話：082-545-7709

シェルターの利用状況

2009年5月にシェルターを開設し、現在、8室を運営していますが、ほぼ満室状態です。12月15日現在、のべ241人（配偶者、子どもなど同伴家族を含めると合計274人）です。241人のうち、174人が男性、67人が女性です。

生活保護申請された方について利用日数に応じて支給される住宅扶助費、絆再生基金からの助成金、広島県労働者福祉協議会からの助成金、共同募金の社会課題対策プロジェクト募金などで従前よりシェルター運営が経済的に安定してきましたが、8室の家賃、光熱費など固定経費が毎月30万円近く必要なため、常に財政的不安を抱えています。

寄付の振込先です。よろしくお願いいたします。

広島銀行 白島（はくしま）支店 普通 3235401 反貧困ネットワーク広島
郵便振替 01390-1-98338 加入者名 反貧困ネットワーク広島

10代	6人
20代	26人
30代	49人
40代	53人
50代	44人
60代	35人
70代	13人
80代	4人
不明	11人
合計	241人

反貧困ネットワーク広島 定期総会・3周年記念講演会（講師：宇都宮健児弁護士）

2月5日 13：30～ 広島平和資料館 地下 メモリアルホール 皆様のご参加をお待ちしています。



反貧困ネットワーク広島

事務局 広島市中区東白島 14-15
NTTクレド白島ビル7階
広島総合法律会計事務所内

電話：082-227-8181 FAX：082-227-1200

相談専用電話 090-4890-1579（10時～17時）

